

【専門基礎分野】

授業科目名	解剖生理学 I		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	人体の構造と機能、生命現象について理解し、看護学に必要な観察力や科学的根拠に基づいた判断をするための基礎的知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活行動を支える運動系の組織・器官として骨組織・関節・筋の構造と機能について理解できる。 各器官の諸機能の統御、内部環境の恒常性を維持している神経系の構造と機能について理解できる。 		
回数	授業内容	時間内訳・授業方法	
1	骨格・骨（組成・構造）	16 時間 講義	
2	骨の成長・関節・骨格筋	講義	
3	骨格筋の名称・体幹の骨格	講義	
4	体幹の筋	講義	
5	上肢の骨格と筋	講義	
6	下肢の骨格と筋	講義	
7	下肢の筋肉と運動	講義	
8	筋収縮	講義	
9	神経系の構造と機能	14 時間 講義	
10	脊髄と脳幹・小脳	講義	
11	大脳・大脳皮質	講義	
12	脊髄神経と脳神経（1）	講義	
13	脊髄神経と脳神経（2）	講義	
14	脊髄神経と脳神経（3）	講義	
15	脊髄神経と脳神経（4）	講義	
教科書			
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 筆記試験は 100 点満点（運動器 50 点、神経系 50 点）とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	解剖生理学Ⅱ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	人体の構造と機能、生命現象について理解し、看護学に必要な観察力や科学的根拠に基づいた判断をするための基礎的知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命維持に欠かせない食物の消化・吸収および代謝、老廃物の排泄を行う器官の構造や機能を理解できる。 2. 正常に機能するための恒常性の維持に関与する内分泌器官の構造、ホルモンの作用について理解できる。 		
回数	授業内容	時間内訳・授業方法	
1	内臓機能の調節 自律神経系、内分泌に必要なニューロンの生理学、自律神経系内分泌系の概略	12 時間	講義
2	体性神経系と自律神経系、交感神経系と副交感神経系、自律神経支配の特徴、伝達物質と受容体		講義
3	内分泌とホルモン、視床下部下垂体系、分泌調節によるホルモンの分類、成長ホルモン、プロラクチン、甲状腺ホルモン		講義
4	副腎皮質ホルモン、性腺ホルモン		講義
5	下垂体後葉ホルモン、副腎髄質ホルモン		講義
6	膵島、パンプレッシン、アルドステロン、その他 (1～6 回の講義は必ず[予習]教科書の当該頁を読む、[復習]授業ノートをまとめる。)		講義
7	血液の組成と機能、赤血球	8 時間	講義
8	白血球、血小板、凝固		講義
9	血漿タンパク		講義
10	血液型、リンパ管		講義
11	消化器（上部消化管 1）	10 時間	講義
12	消化器（上部消化管 2）		講義
13	消化器（下部消化管）		講義
14	消化管（肝・胆・膵 1）		講義
15	消化管（肝・胆・膵 2）		講義
教科書			
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点（内分泌 40 点、血液・リンパ 20 点、消化器 40 点）とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	解剖生理学Ⅲ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師 集中ケア認定看護師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	人体の構造と機能、生命現象について理解し、看護学に必要な観察力や科学的根拠に基づいた判断をするための基礎的知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命活動に欠かせない換気とガス交換を行う器官の構造と機能について理解できる。 2. 栄養や酸素・二酸化炭素など流通路としての役割を果たす循環器系の構造と機能について理解できる。 3. 代謝物である老廃物の除去、体液量の調整を行なう器官として腎泌尿器の構造や機能を学び、血液循環を正常に保つことの重要性について理解できる。 		
回数	授業内容		時間内訳・授業方法
1	呼吸の構造		10 時間 講義
2	内呼吸と外呼吸 呼吸と運動		講義
3	呼吸運動の調整		講義
4	呼吸器系の病態生理		講義
5	講義 1 回目～4 回目の総復習		講義
6	心臓の解剖		10 時間 講義
7	心電図		講義
8	心機能		講義
9	血管の解剖、血液循環と調整（血圧）		講義
10	末梢循環		講義
11	腎・尿路の解剖		10 時間 講義
12	尿細管の機能、レニン・アンジオテンシン・ステロン系		講義
13	クリアランス、排尿機能		講義
14	水、電解質の調整		講義
15	体液の調整（酸・塩基）		講義
教科書			
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点（呼吸器 40 点、循環器 30 点、腎・泌尿器 30 点）とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	生化学		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	<p>人体を構築している臓器・組織の構成単位である細胞の中で起こっている物質代謝を学び、生体内で営まれている生理現象を理解できる。</p> <p>生体の正常な構造・機能の破綻した状態である病気を理解できるための基礎的知識を習得する。</p>		
到達目標	<p>人体を構築している臓器・組織の構成単位である細胞の中で起こっている物質代謝を学び、生体内で営まれている生理現象を理解できる。</p>		
回数	授業内容		授業方法
1	生化学を学ぶための基礎知識		講義
2	糖質の構造、役割、糖質の代謝 (1)		講義
3	糖質の代謝 (2)、脂質の構造と役割 (1)		講義
4	脂質の構造と役割 (2)		講義
5	代謝とエネルギー、脂質の代謝 (1)		講義
6	脂質の代謝 (2)		講義
7	タンパク質		講義
8	タンパク質の代謝		講義
9	ポルフィリン代謝、異物代謝		講義
10	酵素の働き		講義
11	核酸の構成成分		講義
12	DNAの複製、転写、翻訳		講義
13	シグナル伝達		講義
14	ビタミンと補酵素、ホルモンの種類と作用機序		講義
15	まとめ		講義
教科書			
系統看護学講座 専門基礎分野 生化学			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の3分の2以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 筆記試験は100点満点とし、60点以上で合格とする。			

授業科目名	栄養学		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	管理栄養士
単位・時間数	1 単位 15 時間	開講年次	1 年次後期
目的	栄養が健康の維持・増進・疾患との関わりにおいてはたす役割やエネルギー・栄養素の代謝について理解し、看護実践における栄養学的な基礎知識を習得する。		
到達目標	1. 栄養が生命維持や健康の維持・増進において果たす役割を理解できる。 2. 健康の維持・増進、疾病の治療・回復のための食生活とその支援について理解できる。		
回数	授業内容		授業方法
1	栄養とそのはたらき		講義
2	食物の消化と栄養素の吸収・代謝		講義
3	エネルギー代謝と栄養状態の評価・判定		講義
4	ライフサイクルと栄養		講義
5	臨床における栄養補給法と食事療法		講義
6	病態と栄養		講義
7	病院食の実際とチーム医療		演習
8	わが国の栄養の現状と食生活の支援		講義
教科書 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学			
評価方法 1. 筆記試験 80 点、平常点 20 点（平常点は小テスト、感想等の提出物で授業参加を評価する） 2. 合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名	微生物学		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	検査技師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	患者および自分の身を守る上で重要な感染防止の技術の基礎として、微生物の成り立ちや生体に与える影響を学び、生体防御機構および感染症についての知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肉眼では観察できない微生物の性質や病原微生物に対する生体防御機構を理解できる。 2. 感染症発症のメカニズムや発症後の生体反応および感染症の予防について理解できる。 		
回数	授業内容		講義方法
1	オリエンテーション 微生物と微生物学		講義
2	細菌の性質 (1)		講義
3	細菌の性質 (2)、真菌の性質		講義
4	原虫の性質、ウイルスの性質		講義
5	感染と感染症、感染源・感染経路からみた感染症		講義
6	経口感染、経気道感染、接触感染他		講義
7	感染に対する生体防御機構		講義
8	滅菌と消毒、感染症の検査と診断、感染症の治療		講義
9	感染症の現状と対策		講義
10	微生物実験 (1)		実験
11	微生物実験 (2)		実験
12	病原細菌と細菌感染症 (1)		講義
13	病原細菌と細菌感染症 (2)、病原真菌と真菌感染症		講義
14	病原原虫と原虫感染症、病原ウイルスとウイルス感染症 (1)		講義
15	病原ウイルスとウイルス感染症 (2)、まとめ		講義
教科書			
系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	薬理学		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	薬剤師
目的	薬剤の性質・生体に与える影響や薬剤投与管理について理解し、安全な与薬技術の基礎的知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤の性質や特徴、薬剤によって起こる生体の生理的变化を学び、健康に及ぼす影響について理解できる。 2. 薬剤の管理法、使用法について学び、安全な薬物療法の提供について理解できる。 		
回数	授業内容		授業方法
1	薬理学総論、薬物とは、薬理学とは		講義
2	薬理学総論と各論		講義
3	薬物動態学総論		講義
4	薬物動態の指標、代謝消失		講義
5	薬物の相互作用		講義
6	薬物使用の有益性、危険性、個人差		講義
7	薬と法律、新薬の開発、感染症の治療		講義
8	感染症治療薬、抗菌薬各論		講義
9	ウイルス薬、抗がん剤		講義
10	抗がん剤各論、免疫系基礎知識		講義
11	免疫抑制、増強剤、抗アレルギー剤		講義
12	抗炎症薬、ステロイド、抗リウマチ剤、抗痛風薬		講義
13	神経系に作用する薬、末梢、自律神経系		講義
14	麻酔、向精神薬		講義
15	心不全・不整脈の治療、利尿薬、血液凝固系、血液に作用する薬物		講義
教科書			
系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	病理学		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	「病気とは何か」について病気に関する基本的な概念を確立し、分子レベルから個体レベルまで病気の成り立ちについて理解し、病態治療論をはじめとする専門領域科目の基礎的知識を習得する。		
到達目標	病気の原因、分類、発生機序、病気の診断を理解し、疾病を理解するために形態的機能的変化や発生機序を理解できる。		
回数	授業内容		授業方法
1	病理学とは、細胞の障害と適応 (1)		講義
2	細胞の障害と適応 (2)		講義
3	細胞死 (アポトーシス)		講義
4	炎症の転帰、分類		講義
5	組織の修復 (創傷治癒)		講義
6	代謝・循環障害		講義
7	出血、血栓症		講義
8	血栓症・梗塞		講義
9	循環ショック、高血圧症、側副循環		講義
10	免疫、アレルギー (1)		講義
11	アレルギー (2)、免疫・移植		講義
12	腫瘍とその発生原理、広がり、進行、診断治療 (1)		講義
13	腫瘍とその発生原理、広がり、進行、診断治療 (2)		講義
14	癌抑制遺伝子		講義
15	癌疫学		講義
教科書			
系統看護学講座 専門基礎分野 病理学			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名	病態治療論 I		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	解剖生理学の知識を基盤に病態・検査・治療を理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力の基礎となる知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日常生活を支える運動機能と、生存、生活に影響する中枢神経機能、骨、関節、筋肉、脳神経系が障害された場合に生じるさまざまな症状の特徴と病態生理・疾患を理解できる。 症状の特徴と病態生理、疾患に関連した検査法、診断法、治療法を理解できる。 		
回数	授業内容		時間内訳・授業方法
1	運動器、骨格、神経		10 時間 講義
2	関節疾患と治療		講義
3	脊髄疾患と治療		講義
4	骨、関節炎		講義
5	運動器疾患の治療、スポーツ障害		講義
6	脳疾患の症状と病態生理		10 時間 講義
7	頭蓋内圧亢進症状など		講義
8	脳疾患の検査・治療・処置(1)		講義
9	脳疾患の検査・治療・処置(2)		講義
10	脳疾患の理解		講義
11	脳神経障害とは、脳神経疾患の主な症状と病態生理(1)		10 時間 講義
12	脳神経疾患の主な症状と病態生理(2)		講義
13	脳神経疾患の診察・検査		講義
14	脳神経疾患の理解(1)		講義
15	脳神経疾患の理解(2)		講義
教科書			
系統看護学講座 専門分野 II 運動器 系統看護学講座 専門分野 II 脳・神経			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 筆記試験は 100 点満点（運動器 40 点、脳神経内科 30 点、脳神経外科 30 点）とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	病態治療論Ⅱ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	解剖生理学の知識を基盤に病態・検査・治療を理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力の基礎となる知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命体を維持するために必要な食と排泄に関して、消化、吸収を行う器官である消化器系が障害された場合に生じるさまざまな症状の特徴と病態生理・疾患を理解できる。 2. 症状の特徴と病態生理、疾患に関連した検査法、診断法、治療法を理解できる。 		
回数	授業内容		時間内訳・授業方法
1	消化器の生理		10 時間 講義
2	病態治療 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患（内科的疾患各論）（1）		講義
3	病態治療 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患（内科的疾患各論）（2）		講義
4	検査・治療、処置（1）		講義
5	検査・治療、処置（2）		講義
6	病態治療 上部消化管（1）		20 時間 講義
7	病態治療 上部消化管（2）		講義
8	病態治療 下部消化管（1）		講義
9	病態治療 下部消化管（2）		講義
10	病態治療 胆嚢、肝臓、膵臓（1）		講義
11	病態治療 胆嚢、肝臓、膵臓（2）		講義
12	病態治療 胆嚢、肝臓、膵臓（3）		講義
13	病態治療 脾、門脈、その他（1）		講義
14	病態治療 脾、門脈、その他（2）		講義
15	病態治療 口腔内、甲状腺、副腎		講義
教科書			
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点（消化器外科 60 点、消化器内科 40 点）とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	病態治療論Ⅲ		
担当講師			
実務経験の有無	有	無	実務経験内容 医師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次前期
目的	解剖生理学の知識を基盤に病態・検査・治療を理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力の基礎となる知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個体差の大きい内部環境調節に関わる内分泌・代謝血液・造血器が障害された場合に生じるさまざまな症状の特徴と病態生理・疾患を理解できる。 2. 症状の特徴と病態生理、疾患に関連した検査法、診断法、治療法を理解できる。 		
回数	授業内容	時間内訳・授業方法	
1	内分泌・代謝疾患の症状と病態生理、検査治療処置(1)	14 時間	講義
2	内分泌・代謝疾患の症状と病態生理、検査治療処置(2)		講義
3	内分泌・代謝疾患の症状と病態生理、検査治療処置(3)		講義
4	糖尿病(1)		講義
5	糖尿病(2)		講義
6	糖尿病(3)		講義
7	内分泌・代謝疾患の症状と病態生理まとめ		講義
8	血液・造血器疾患の症状と病態生理、検査治療処置(血液)	10 時間	講義
9	アレルギー		講義
10	膠原病		講義
11	感染症(1)		講義
12	感染症(2)		講義
13	放射線医学の基礎	6 時間	講義
14	放射線治療の総論		講義
15	放射線防護・発癌・妊娠と放射線		講義
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー、膠原病、感染症 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点（内分泌・代謝 30 点、糖尿病 20 点、血液・造血器・アレルギー・膠原病・感染症 30 点、放射線 20 点）とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	病態治療論Ⅳ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師、看護師
単位・時間数	1 単位 15 時間	開講年次	1 年次後期
目的	解剖生理学の知識を基盤に病態・検査・治療を理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力の基礎となる知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生存に不可欠な酸素を取り入れ、必要な物質を全身に運ぶ役割を担う循環器系が障害された場合に生じるさまざまな症状の特徴と病態生理・疾患を理解できる。 2. 症状の特徴と病態生理、疾患に関連した検査法、診断法、治療法を理解できる。 		
回数	授業内容	時間内訳・授業方法	
1	虚血性心疾患の症状と病態生理	8 時間 講義	
2	心不全症状と病態生理(1)	講義	
3	心不全症状と病態生理(2)、高血圧の症状と病態生理	講義	
4	不整脈の症状と病態生理	講義	
5	12 誘導心電図	1 時間 演習(心電図検査) 教員が演習を担当する	
6	心臓血管外科総論	6 時間 講義	
7	心臓血管外科各論(血管外科)(1)	講義	
8	心臓血管外科各論(血管外科)(2)	講義 臨床外科各論 第 2 章	
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点(循環器内科 50 点、循環器外科 50 点)とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	病態治療論Ⅴ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師、理学療法士、特定行為研修修了者
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	解剖生理学の知識を基盤に病態・検査・治療を理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力の基礎となる知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生存に不可欠な酸素を取り入れる呼吸器系が障害された場合に生じるさまざまな症状の特徴と病態生理・疾患を理解できる。 2. 症状の特徴と病態生理、疾患に関連した検査法、診断法、治療法を理解できる。 		
回数	授業内容		時間内訳・授業方法
1	呼吸器疾患の症状と病態生理、検査・治療・処置(1)(呼吸器内科)		10 時間 講義
2	呼吸器疾患の症状と病態生理、検査・治療・処置(2)(呼吸器内科)		講義
3	呼吸器疾患の症状と病態生理、検査・治療・処置(3)(呼吸器内科)		講義
4	呼吸器疾患の症状と病態生理、検査・治療・処置(4)(呼吸器内科)		講義
5	呼吸器疾患の症状と病態生理、検査・治療・処置(5)(呼吸器内科)		講義
6	呼吸器疾患の症状と病態生理、検査・治療・処置(1)(呼吸器外科)		6 時間 講義
7	呼吸器疾患の症状と病態生理、検査・治療・処置(2)(呼吸器外科)		講義
8	呼吸器疾患の症状と病態生理、検査・治療・処置(3)(呼吸器外科)		講義
9	麻酔学(1)		6 時間 講義
10	麻酔学(2)		講義
11	一次救命処置(BLS)・心肺蘇生法		講義
12	リハビリテーション看護(1)		8 時間 講義
13	リハビリテーション看護(2)		講義
14	リハビリテーション看護(3)		講義
15	リハビリテーション看護(4)		講義
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点(呼吸器内科 30 点、呼吸器外科 20 点、麻酔学 20 点、リハビリテーション 30 点)とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	病態治療論Ⅵ		
担当講師			
実務経験の有無	有・無	実務経験内容	医師
単位・時間数	1 単位 30 時間	開講年次	1 年次後期
目的	解剖生理学の知識を基盤に病態・検査・治療を理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力の基礎となる知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体液の恒常性を維持し、代謝産物である老廃物の除去を行う器官である腎・泌尿器系が障害された場合に生じるさまざまな症状の特徴と病態生理・疾患を理解できる。 2. 限りある個体の生命が遺伝子を介して連続していく生殖機能に関するさまざまな症状の特徴と病態生理・疾患を理解できる。 3. 症状の特徴と病態生理、疾患に関連した検査法、診断法、治療法を理解できる。 		
回数	授業内容		時間内訳・授業方法
1	泌尿器科総論		10 時間 講義
2	感染症、尿路結石の症状と病態生理、検査治療処置		講義
3	尿路・性器の腫瘍の症状と病態生理、検査治療処置		講義
4	尿路通過障害の症状と病態生理、検査治療処置、腎移植		講義
5	尿路損傷・奇形・陰嚢疾患の症状と病態生理、検査治療処置		講義
6	慢性腎臓病の症状と病態生理、検査治療処置(1)		10 時間 講義
7	慢性腎臓病の症状と病態生理、検査治療処置(2)		講義
8	急性腎臓病の症状と病態生理、検査治療処置		講義
9	ネフローゼ症候群、糸球体腎炎の症状と病態生理、検査治療処置		
9	全身性疾患に伴う腎障害		講義
10	腎代替療法		講義
11	生殖器疾患の症状と病態生理、検査治療処置(1)		10 時間 講義
12	生殖器疾患の症状と病態生理、検査治療処置(2)		講義
13	生殖器疾患の症状と病態生理、検査治療処置(3)		講義
14	生殖器疾患の症状と病態生理、検査治療処置(4)		講義
15	乳房の疾患と病態生理、検査治療処置		講義
教科書			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器			
評価方法・基準			
1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。			
2. 筆記試験は 100 点満点（腎 40 点、泌尿器 30 点、生殖器 30 点）とし、60 点以上で合格とする。			

授業科目名		病態治療論Ⅶ					
担当講師							
実務経験の有無		有	無	実務経験内容	医師		
単位・時間数		1 単位 30 時間		開講年次		2 年次前期	
目的		解剖生理学の知識を基盤に病態・検査・治療を理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力の基礎となる知識を習得する。					
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 外部環境の変化を感受し情報の伝達を行う感覚機能に関する感覚器が障害された場合に生じるさまざまな症状の特徴と病態生理・疾患を理解できる。 2. 症状の特徴と病態生理、疾患に関連した検査法、診断法、治療法を理解できる。 					
回数	授業内容				時間内訳・授業方法		
1	皮膚疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(1)				8 時間	講義 (竹原先生)	
2	皮膚疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(2)				講義		
3	皮膚疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(3)				講義		
4	皮膚疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(4)				講義		
5	眼疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(1)				8 時間	講義	
6	眼疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(2)				講義		
7	眼疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(3)				講義		
8	眼疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(4)				講義		
9	歯・口腔疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(1)				4 時間	講義	
10	歯・口腔疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(2)				講義		
11	耳鼻咽喉疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(1)				10 時間	講義	
12	耳鼻咽喉疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(2)				講義		
13	耳鼻咽喉疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(3)				講義		
14	耳鼻咽喉疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(4)				講義		
15	耳鼻咽喉疾患の症状と病態生理、検査治療処置、主な疾患(5)				講義		
教科書							
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚							
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼							
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 歯・口腔							
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻咽喉							
評価方法・基準							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点 (耳鼻咽喉 40 点、眼 30 点、皮膚 30 点) とし、60 点以上で合格とする。 							

授業科目名	医療概論		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 15 時間	開講年次	1 年次後期
実務経験の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	実務経験内容	医師
目的	医療を支える専門職として質の高い医療、人を中心とした医療を行うために、医療とは何か、現代医療の高度な発達を背景に現代医療はどのように行われているのか、どのような問題があるのかを常に広い視野から洞察を深め、チーム医療における看護の役割を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の歴史的発展、医療を支える科学技術を学び、現代医療における諸問題を理解できる。 2. 他職種者との連携、協働のありかたを考え、チーム医療における看護の役割を理解できる。 		
回数	授業内容		授業方法
1	健康とは 生存権、リスボン宣言、健康格差		講義
2	医療施設調査 医療が提供される場、その動向		講義
3	医療倫理 <u>テキスト第4章 医療と社会 A</u>		講義
4	日本医療保険制度の特徴		講義
5	医療安全 <u>テキスト第4章 医療と社会 B</u>		講義
6	薬害		講義
7	患者中心ケアと医療チーム、EBM <u>テキスト 第2章 医学と医療</u>		講義
8	高齢者医療 <u>テキスト第1章C・D</u>		講義
教科書			
系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論			
評価方法・基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。 2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。 			

授業科目名	公衆衛生学		
担当講師			
単位・時間数	1 単位 15 時間	開講年次	1 年次後期
目的	<p>現代社会では、人口の高齢化やライフスタイルの多様化により慢性疾患や生活習慣病の増加など個人的要因だけでなく、社会的要因や環境的要因が健康に深く関係し疾病構造が変化している。そのため、個人衛生では解決できない問題も多く、健康を支援する社会環境づくりに取り組み、社会全体として健康問題の解決に取り組むことが必要となっている。</p> <p>健康教育と社会の仕組みや制度を含む環境づくりを組み合わせたヘルスプロモーションについて理解し、看護職として生活者の健康を保持・増進するための基礎的知識を習得する。</p>		
到達目標	<p>1. 自然環境、社会環境が健康に及ぼす影響を学び、ヘルスプロモーションについて理解できる。</p> <p>2. 生活者の健康の保持・増進、疾病の予防のための保健活動について理解できる。</p>		
回数	授業内容	授業方法	
1	公衆衛生の歴史、現在の公衆衛生システムと政策	講義	
2	公衆衛生の理念・概念、公衆衛生のものさし (1)	講義	
3	公衆衛生のものさし (2)、公衆衛生活動のプロセス	講義	
4	子どもと保健、高齢者、成人の健康づくり	講義	
5	歯科保健、精神保健	講義	
6	難病、健康危機管理と災害	講義	
7	感染症、学校保健	講義	
8	産業保健、環境保護	講義	
教科書			
ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生学			
評価方法			
<p>1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。</p> <p>2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。</p>			

授業科目名		関係法規		
担当講師				
単位・時間数		2 単位 45 時間	開講年次	2 年次前期
目的		<p>看護職が法に規定された範囲内で他職種と協働して対象の健康を守るという任務を十分果たすため、必要な法令を知る必要がある。</p> <p>近年の高齢化や医療問題などによる関係法規の新設や改定が行われており、複雑化している。現代の医療及び看護の問題と関係法令の成立の関連を理解する。</p>		
到達目標		<p>1. 人の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割機能についての基本的な法を理解できる。</p> <p>2. 対象の健康を守るために必要な、生活者に関する法を理解できる。</p>		
回数	授業内容			授業方法
1	イントロダクション			講義
2	法の概念 (1)			講義
3	法の概念 (2)			講義
4	保健師助産師看護師法 (1)			講義
5	保健師助産師看護師法 (2)、看護師等の人材確保の促進に関する法律			講義
6	医療法			講義
7	医療関係資格法			講義
8	保健医療福祉資格法、地域保険法			講義
9	臓器移植法			講義
10	健康増進法			講義
11	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律			講義
12	母子保健法、母体保護法など			講義
13	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律			講義
14	予防接種法、薬事法			
15	健康保険法、国民健康保険法等			講義
16	高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法 (1)			講義
17	介護保険法 (2)			講義
18	社会福祉法、生活保護法			講義
19	障害者総合支援法			講義
20	労働基準法、労務安全衛生法			講義
21	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律等			講義
22	環境法等			講義
23	まとめ			講義
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 国民衛生の動向 看護六法		
評価方法				
<p>1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。</p> <p>2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。</p>				

授業科目名		社会福祉		
担当講師				
単位・時間数		2 単位 45 時間	開講年次	2 年次前期
目的		<p>近年、生きがいと自己実現、生活の質という価値観よりウェル・ビーイングが強く求められており、看護職にも、対象の地域や家庭での生活へのトータルケアマネジメントの視点と福祉との連携が必要である。</p> <p>そのため、社会生活を営む上での様々な問題や困難を解決し、人々の健康や暮らしを支え、生活の営みをより良い状態に保つための社会保障の理念と基本的な制度の考え方を理解する。</p>		
到達目標		<p>1. 生活を支える社会保障の理念と制度について理解できる。</p> <p>2. 社会的援護を要する人の自立した生活を支援するために、社会福祉制度と社会資源活用方法を理解できる。</p>		
回数	授業内容			授業方法
1	社会保障制度と社会福祉 (1) (概念・目的・機能)			講義
2	社会保障制度と社会福祉 (2) (社会保障給付費、社会福祉の法制度等)			講義
3	社会保障制度と社会福祉 (3) (福祉 6 法、社会福祉財政、組織と従事者)			講義
4	現代社会の変化と社会保障、社会福祉の動向 (1) (人口、地域、家族等)			講義
5	現代社会の変化と社会保障、社会福祉の動向 (2) (地域医療構想、健康日本 21)			講義
6	医療保障 (1) (沿革、類型、特徴、国民健康保険制度改革)			講義
7	医療保障 (1) -2 (保険者と対象者、給付と負担)			講義
8	医療保障 (2) (後期高齢者医療制度、保険診療のしくみ)			講義
9	医療保障 (2) -2 (公費負担医療、国民医療費) 介護保障 (1)			講義
10	介護保障 (1) (要介護認定、保険給付、施設/居宅/地域密着型サービス)			講義
11	介護保障 (2) (利用者負担、権利擁護)、所得保障 (1) (年金のしくみ)			講義
12	所得保障 (1) -2 (国民年金・厚生年金、需給資格、社会手当)			講義
13	所得保障 (2) (雇用保険制度)			講義
14	労災保険、公的扶助 (1) (生活保障の原理)			講義
15	公的扶助 (2) (原則、種類、内容、基準、過程)			講義
16	公的扶助 (3) (社会手当、生活福祉資金貸付制度、生活困窮者支援制度)			講義
17	高齢者福祉 (根拠法、施設、新オレンジプラン)			講義
18	障害者福祉 (1) (定義・理念)			講義
19	障害者福祉 (2) (制度の変遷、概要、障害者総合支援法)			講義
20	障害者福祉 (3) (新たな法体系の整備、関係施策、地域づくり)			講義
21	児童家庭福祉 (1) (児童福祉法、母子保健法)			講義
22	児童家庭福祉 (2) (DV 防止法、児童虐待防止法、子どもの人権)			講義
23	まとめ			講義
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 国民衛生の動向		
評価方法				
<p>1. 出席時間数の 3 分の 2 以上を出席し、レポート等課せられたものを提出した者は、評価を受けることができる。</p> <p>2. 筆記試験は 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。</p>				

